

自立のためには根気よく！

幼児期から小学校前半にかけて大切にしているのが、3つの自立（学習上の自立、生活上の自立、精神上的の自立）です。体験や活動を通して、自立の基礎が培われるよう幼保小の先生たちは学校や幼児教育施設を互いに訪問し理解を深めています。

最近、車での送迎時にシートベルトの着用を守らず走行中に外したり、職員に反抗して守ってられない児童もいて苦慮することがあります。そんな時は車を止めて、着用してくれるまで待ちます。学校生活で嫌なことがあったり、うまくいかないことがあったとしても、法令順守ができる人になってほしいとの思いは揺らぎません。

先日は千葉県で幼稚園バスが民家に突っ込み運転手さんが亡くなる事故が起きました。

各ご家庭でも、ルールを守ることの必要性について、一度話し合いをして頂くと助かります。

朝夕は少し涼しくなり、運動会に向けての練習にも熱が入りそうですね。

10月の目標

「物をまとめよう！」

宿題をするとき、筆箱やプリントがぐちゃぐちゃに広がっていたり、工作で切ったものや使っているものが散乱したりしていることが多くあります。

宿題や遊ぶ際、整理整頓を気に掛けられるよう引き続き声掛けしていきます。

❀実習の先生が来られます(*^▽^*)❀

子ども発達支援士の資格取得に向けて、西九州大学子ども学科の学生が夕方の時間、児童クラブに来られます。児童と関わったり、遊んだりして下さったりします(*^-^*)どうぞ宜しくお願い致します。

★再度、ご協力のお願い★

お忙しい中、いつもご協力ありがとうございます。
以下の3点を今後も必ず宜しくお願い致します。

- ① 児童クラブをお休みされる場合、お昼12時までにご連絡ください。（学校を休まれた時も）
- ② 連絡帳を毎日確認され、押印又はサインをお願いします。
- ③ 着替えをお持たせください。
※児童クラブでは、着替えやタオル等の貸し出しをしておりません。お漏らし、嘔吐や下痢等があった際、着替えがないと、保護者の方にご連絡し、お迎えに来られるまで児童をそのままの状態でご待たせしてしまうことになります。

【★鬼滅の刃ブームが続いています★】



アイロンビーズやレゴブロックを使って好きなキャラクターやオリジナルの刀を作ってごっこ遊びを楽しんでいます
★刀の鍔(つば)はあとからはめることができるように空洞の幅を考えて作ってありました♪しばらく映画が続くので、ブームも長引きそうです！



雨上がりに、久しぶりの泥だんごづくり♪



10月の学童児童数

	在籍者数	休所者数	利用者数	そのうち新規入所者数	9月末退所者数
1年生	13	0	13	0	0
2年生	2	0	2	0	0
3年生	12	0	12	0	0
計	27	0	27	0	0

『心の発達と非認知的能力』

健康福祉学部スポーツ健康福祉学科 教授 栗原淳

幼児期から学童期、そして思春期を経て青年期にかけ私たちは成長し、心身の機能も発達をしていきます。ここ 40 年程、体力・運動能力低下が指摘される一方、特に心の発達面において、自己肯定感や自己効力感の欠如、自尊感情の喪失や燃え尽き症候群（やる気・意欲が湧かない）など、医療関係者や教育現場から多くの心の健康課題が報告されています。心の発達は言い換えると脳の発達とも言えます。

簡単な脳科学の視点で考えてみますと、額（おでこ）の内側にある前頭葉は、「意欲」や「集中力」、「がまん」といったブレーキ機能（善悪に従う）の働きをしています。また、脳の中心部にある扁桃体は、「安心」「幸せ」「満足」といったアクセル機能（好き嫌いに従う）の働きをしています。この両者のバランスによって、私たちは日常生活のあらゆる場面で意思決定を行い、行動選択の判断をしているといっても過言ではありません。自分のやりたいことをいつも我慢し続けている状況を想像してみましょう。主体的に行動することや物事に取り組む意欲が湧くはずありません。好き嫌いだけに従っていたのでは、自己中心的で協調性のないわがままな存在となってしまいます。アクセルとブレーキの両者が十分機能することが心の健康に大切な要素となるのです。

これまでの社会は、知識偏重の学歴社会と言われてきました。この社会では IQ で示される「認知能力」が重視されてきました。現代社会は AI（人工知能）に代表される超情報社会です。もはや、単に知識量を求める時代ではなく、如何に知識・情報を活用しながら、周囲の人と協力して課題解決に向けて粘り強く立ち向かえる能力を求める時代なのです。この能力を「非認知的能力」と言います。「非認知的能力」とは、IQ では測ることのできない感情をコントロールする能力、粘り強さ、周囲と上手に関わるスキルといった、人間力のことを示します。そして、「非認知的能力」をしっかりと身に付けるためには、幼児期に取り組むのが最も効果が得られやすいとされます。日本でも 2017 年 3 月の学習指導要領改訂の際、「非認知的能力」を強化するプログラムが導入され、保育所保育指針、幼稚園教育要領もその視点を踏まえ改訂されました。

ここで、5つの「非認知的能力」を紹介しましょう。

- ◎心の知能指数：感情をコントロールする力。自己制御力（がまんする力）
- ◎社会的指数：人の気持ちや状況を想像する力
- ◎発想指数：創造力や発想力の強さ
- ◎身体的能力：忍耐力や継続力の強さ、粘り強さ
- ◎逆境指数：逆境にめげずに前進する力、レジリエンス

幼児期に大切なことは、“やりたい”遊びに夢中になり、試行錯誤することです。様々な遊びを通して小さな失敗を繰り返しながら、やる気、忍耐力などの能力を身につけ、達成感が自信や意欲を高めることに繋がるのです。

子どもが遊び込んでいる姿は、心の発達にとって「宝石箱」なのです。